



／ インターンシップ参加者の声 ／

こんな仕事だったんだ！
家庭裁判所調査官。



今回が初開催となった裁判所インターンシップ(家庭裁判所調査官)！！

全国各地から16人の学生の皆さんが参加し、8月8日から10日までの3日間にわたり、裁判所職員総合研修所と東京家庭裁判所において行われました。

最初は緊張していた皆さんですが、徐々に打ち解け、議論は大いに盛り上がりました。

参加した学生の皆さんの様子や感想を主なプログラムに沿ってご紹介します。

／ インターンシップ参加者アンケートより ／

Q 裁判所や家裁調査官の仕事についての理解が深まりましたか？

参加者全員が
“理解が深まった”と回答



具体的には・・・

更生や問題解決に深く関わり、自ら働きかけをすること、審判に大きな影響を与えることを知った。 [女性]

何度も参加する価値があると思う。 [男性]

指導官の方が道筋を作ってくださったので、安心して実習を進めていくことができた。また、最後にフィードバックをくださったのもとても嬉しかった。 [女性]

非公開の少年法の手続きは、調べても実際のイメージがわきづらく、今回はとても貴重な経験だった。家裁調査官の仕事を知る上で、これ以上の方法はないと思う。 [男性]

人に寄り添う仕事だと気づき、新たな魅力を発見することができた。 [女性]

調査官の方と直接お話してきたことが何より勉強になった。 [男性]

講義 / 研修所見学

自己紹介後、まずは家庭裁判所で何が行われているのか、そこで家裁調査官はどのような役割を果たしているのかについて講義が行われました。

その後、模擬審判廷や面接演習室など、家裁調査官として必要な知識や技法を習得するための専用の設備を見学しました。普段は見ることでできない場所での見学に実習生の皆さんも少し興奮気味でした。



少年事件調査の事前準備

なぜ少年は暴力を振るったのか、少年を取り巻く環境はどのようなものかなどについて、模擬事例資料をもとにグループで討議。その後、具体的な調査内容についてもグループ討議し、翌日の模擬面接に備えました。

グループごとに様々な意見が出され、議論は白熱していました。



出てくる意見の多様さに学ぶ部分が多く、発見もたくさんあった。 [男性]

調査官の方が指導官としてついてくださり、グループの議論が白熱した。 [女性]

検討をする中で、新たな視点が得られ、チームで仕事をする意識が高まった。 [男性]



模擬面接 / 処遇意見の検討

2日目からは東京家裁での実習がスタート。家裁調査官室や面接室、審判廷など、実際の家裁調査官が活躍する現場を見学した後、実習生の皆さんが家裁調査官役や少年役となり調査面接を疑似体験しました。一人一人が家裁調査官となり、それぞれ何とか少年の真意を理解しようと頑張っていました。

その後、これまでの調査結果をもとに、次の模擬審判に向けて少年の処遇を検討しました。

それぞれの処遇のメリット・デメリット、本件の非行少年にはどれが適切かなど、普段できないような実際に近い検討ができて非常に興味深かった。 [女性]

面接は非常に難しかったが、うまくいった部分の嬉しさ、課題の解決へのやりがいを感じた。 [男性]

模擬ではあったが少年の人生の大きな岐路に立ち会えた気がした。 [女性]



模擬審判 / 振り返り・意見交換

実際の裁判官が裁判官役をつとめ、模擬審判を実施。本番さながらの雰囲気を実習生の皆さんの表情にも緊張感がありましたが、家裁調査官役として立派に意見陳述をしていました。

その後、裁判官を交えて模擬審判の振り返りや意見交換が行われました。

実際の少年審判の場に立ち会えることはないのですが、貴重な体験だった。 [女性]

普段では見ることのできない審判を通じて調査官の役割を学べた。 [男性]

普段見ることのできない面であり、調査官のイメージが大きく変わった。 [女性]



父・母・子どもの心情検討

いよいよ実習も最終日。3日目は家事事件についての実習です。家事事件の調査活動等についての講義や討議の題材となるドラマの視聴をした後、ドラマにおける父、母、子どものそれぞれの心情について検討しました。

子どもの調査の検討

家事事件の調査で使われる調査室や児童室、観察室などを見学した後、子どもの調査を行うに当たり、どのような計画を立てるか(対象、方法、順序、場所等)、子どもとの面接で留意すべきことは何かについて検討しました。初めての家事事件調査に戸惑った様子の皆さんでしたが、グループで検討を重ねる中で、それぞれに新たな気づきが得られたようです。

あまりよく知らなかった家事事件について知ることができた。 [女性]

全体の振り返り・座談会

これまでの振り返り、それぞれが実習を通じて感じたことや、今後の目標などを発表・共有しました。また、実習指導官が、実習生からの質問に答えたり、3日間を通じて見られた実習生の良かった点などについてのフィードバックをしました。3日間の就業体験を通じて、実習生の皆さんはお互いに打ち解け、表情も家裁調査官らしくなっていたのが印象的でした。

家裁調査官の仕事は、裁判官の判断の中核を担う非常に重要な役割であると理解できた。 [女性]

色々な人と関わり、人生経験を広げたいと思った。 [男性]

実習終了

